公表

事業所における自己評価結果

事業所名	KIZUNA 武蔵野		公表日	2025年4月30日		
	チェック項目	はい	いいえ/わからない	工夫している点	課題や改善すべき点	
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	10	0	●道具は常に整理整頓し、十分なスペースを確保できていると感じる。	
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	10	0	●シフトの段階で適切に考えられている。 ●法令で定められている配置人数に加え、専門職員も多く配置し常に3～5人体制で支援にあっている。	●急な体調不良や、感染症、夏季休暇等の際は他事業所からの応援等含め対応し、支援の質が落ちないようにしている。
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	9	1	●活動の場所は視覚的に見てわかるよう空間を区切っている。 ●柱の角など危険な箇所にはクッション性の素材でカバーがされているなど、安全性の高い環境になっている。	●子どもの注意集中のため、飾りつけ等なるべくせず極力シンプルな内装を心がける。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	10	0	●各クールごとに、床の清掃、道具のアルコール消毒を徹底している。	●日々の清掃、整理整頓を意識し、心地よく過ごせる環境作りを職員ひとりひとりがかけていく。
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	9	1	●職員体制としては、気持ち崩れた子どもに対してすぐに対応することができている。●運動フロアには、壁のあるクールダウンできるスペースはないので、他の運動中の子どもが気にしてしまうことはある。	●面談の予定が入っている際には個室を使用する事ができないため、必要に応じてパーティションの購入を検討し、活用していきたい。
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	10	0	●職員間で意見を出しやすい環境づくりを心掛けている。 ●業務が効率的に進むよう日々職員間で役割分担等徹底している。	●業務改善について、目標設定と振り返りまではできていないため、今後は半年に1度など全体で目標設定と振り返りを行っていききたい。
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	10	0	●保護者様からのご意見、ご要望を反映し職員間で話し合い、改善に努めている。	●今回の自己評価結果を公表している。 ●今後も保護者からの意向等を把握し、業務改善に努めていく。
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	10	0	●職員間での意見交換が活発に行われており、改善の余地がある部分については積極的に改善していく姿勢で取り組んでいる。	●ミーティングを毎日行い、日々の業務を効率的に行えるよう努めている。
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	5	5		●今年度、第三者評価を実施する予定。
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内で研修を開催する機会が確保されているか。	10	0	●外部の研修案内については、全職員が見やすいところに掲示されている。 ●外部研修や法人内でも様々な研修を受講する機会がある。	●個人で受講する研修だけでなく、社内研修を継続して行ない、職員が日々スキルアップしていける仕組みを整えていく。
適切な支援の提供	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	10	0	●ガイドラインの発達5領域や子どもの発達段階に合わせ、職員間で話し合い、適切に作成されている。	●事業所ホームページにて公表している。
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか。	10	0	●お子様や保護者様がどのようなことに困っているのか、支援すべきことは何なのか等、職員間で入念に話し合い、支援計画を作成している。	●今後も保護者のニーズや子どもの課題を適切に分析し、満足感を得られる支援を継続して行っていく。
	13	児童発達支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	10	0	●児童発達支援管理責任者と、実際に支援に関わっている職員の共通理解の下、それぞれのお子様の発達段階に合わせた支援計画を作成している。	●主観的にならないよう、職員全員で5領域を念頭に作成していく。
	14	児童発達支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	10	0	●必ず職員間で支援計画を確認、共有し計画に沿って日々の支援にあたっている。	●今後も支援計画はもちろん、来所児童全員の前回活動時の様子や配慮事項、プログラムの共有など入念に打ち合わせを必ず行っていく。

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		KIZUNA 武蔵野		公表日		2025年4月30日	
		チェック項目		はい	いいえ/わからない	工夫している点	課題や改善すべき点
適切な支援の提供	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。		9	1	●日々の行動観察からアセスメントを行い、各検査結果を共有していただくことで理解を深めて支援に活かしている。	●今後も専門職はじめ、日々の行動観察からアセスメントを行い、理解をより深めていく。
	16	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。		9	1	●ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」に則した支援内容の、本人支援、家族支援などを踏まえてそれぞれのお子さまに適切な支援の優先順位をつけて具体的に支援計画を設定している。	●本人支援、家族支援が中心となっており、地域支援はまだ行えていないので、今後の課題となっている。
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。		9	1	●職員間での意見交換が活発に行われており、常に最善の支援ができるようチームでプログラムを立案している。	●プログラムの目的や子どもの様子に合わせて、臨機応変に対応できるよう、更にチームで連携を図っていく。
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。		10	0	●子どもの課題に合わせて、難易度や提示する活動内容を変えて行っている。 ●様々な運動プログラムを通して楽しみながら学びへ繋がっていくよう日々工夫している。	●子どもの発達や課題に合わせて、苦手意識のあるものも自信へと繋がっていくよう今後も様々な知識やスキルを職員が身に付けていく。
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成し、支援が行われているか。		7	3	●個々の課題に合わせてながら、他児と関わる経験も積めるよう、活動や支援を設定している。	
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。		9	1	●支援開始前に必ずミーティングを行い、前回の活動内容や、様子、配慮事項、プログラムの共有・確認など行っている。	
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。		10	0	●支援終了後にも必ず、ひとりひとりのお子さまの様子など職員間で振り返り、今後の支援方針や具体的な手段について、積極的に話し合いが出来る。	
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。		9	1	●保護者様にサインをいただく書面に記録を取るとともに、データとしても打ち込んで残している。	●支援の記録に関しては、個々により基準があまりない部分もあるため、職員間での行動の評価基準などミーティング等で明確にするよう努めていく。
	23	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。		10	0	●ひとりひとりのお子さまの活動時の様子をモニタリングし、定期的に適切な支援計画の見直しを行っている。	
関係機関や保護者との連携	24	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。		10	0	●児童発達支援管理責任者と場合によっては指導員も参画している。	
	25	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。		10	0	●保護者の意向を受け、普段の保育園等で子どもの様子を見学させていただいたり、情報共有を積極的に行っていたり、意見交換を行っている。	●今後も必要に応じて適宜連携を取って行く。
	26	併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。		7	3	●幼稚園・保育園等への見学や情報共有を必要に応じて行っている。	●必要に応じて適宜連携を取って行く。
	27	就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。		9	1	●必要に応じて、就学支援シートの記入や作成を行い、相互理解を図っている。	●引き続き情報提供を求められた際には提供できる体制を整えていく。
	28	(28～30は、センターのみ回答) 地域の他の児童発達支援センターや障害児通所支援事業所等と連携を図り、地域全体の質の向上に資する取組等を行っているか。		9	1		

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		KIZUNA 武蔵野		公表日		2025年4月30日	
		チェック項目		はい	いいえ/わからない	工夫している点	課題や改善すべき点
関係機関や保護者との連携	29	質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等から助言を受けたり、職員を外部研修に参加させているか。		6	4		
	30	(自立支援)協議会こども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか。		6	4		
	31	(31は、事業所のみ回答)		10	0	●市の研修等に参加し、頂いたアドバイスを試したり、支援に活かしている。	●今後も連絡会などに積極的に参加し助言やアドバイスを受けて日々の支援に活かしていく。
		地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言等を受ける機会を設けているか。					
	32	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他のこどもと活動する機会があるか。		3	7	●今のところそのような交流や、活動の機会は設けていない。	●保育園等に通所していないお子さまなど必要に応じて検討していく。
	33	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。		10	0	●毎回のフィードバックの中でも支援方針について共通認識が持てるように心がけている。	●必要に応じてフィードバック時以外にも随時面談の時間を設けていく。
34	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。		3	7	●来所時や、フィードバック時にお話を伺い対応策等をお伝えしている。	●ペアレントトレーニングや研修会等の機会は設けていないので、今後必要に応じて開催を検討していく。	
保護者への説明等	35	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。		10	0	●契約前に重要事項説明書の内容や契約書等、丁寧に説明し、確認いただいている。規約や規定を理解していただいた上で契約をするようにしている。 ●疑問点や質問があれば、その場で回答、解消できるよう努めている。	
	36	児童発達支援計画を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。		10	0	●保護者様のニーズの聞き取りはもちろん、お子様本人の気持ちや意思も尊重し、最適な支援計画を作成している。	
	37	「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。		10	0	●提供すべき支援のねらい、5領域に基づき6か月に1回見直し作成、面談を行い、保護者様から同意を得ている。	
	38	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。		10	0	●特に専門的なアドバイスがほしい保護者に関しては、必要に応じて各専門職の指導員との面談や、情報共有の上アドバイスを行っている。	●フィードバックの時間だけでは足りない場合は必要に応じて他に面談の時間を設けて支援を行っている。
	39	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。		2	8		●現時点では保護者会等の開催はないが、保護者同士の相談の機会を設けてほしい等のご相談があった際には検討し開催していきたい。
	40	こどもや保護者からの相談や申し入れについて、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、相談や申し入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。		10	0	●職員全員が子どもや保護者様からの相談・申し入れには迅速に対応し、職員間で共有、話し合いのもと、適切に対応出来ている。	
	41	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。		4	6	●連絡ツールを活用し、活動概要や出欠の連絡等を行っている。	●今後、ホームページを更に充実させ、情報の発信を行い、周知していく。 ●SNSの活用は現在ないが必要に応じて、検討していく。
42	個人情報の取扱いに十分留意しているか。		10	0	●個人情報記載された書類は鍵付きの棚に厳重に保管している。 ●事業所の事務所は外からは見えない内装となっている。	●PC等からの個人情報へのアクセスはパスワードを設定するなど今後検討していく。	

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		KIZUNA 武蔵野		公表日		2025年4月30日	
		チェック項目	はい	いいえ/わからない	工夫している点	課題や改善すべき点	
	43	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	10	0	●障害に対する理解度に合わせて意思疎通や情報伝達するよう配慮している。	●文面や口頭での説明にならないよう必要に応じて相違が生じないよう努めていく。	
	44	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	3	7		●現在行事やイベントは行ってないが今後検討していきたい。	
非常時等の対応	45	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	10	0		●マニュアルはあるが、訓練を全て実施する事はできていないので、今後徹底していく。	
	46	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	10	0	●避難訓練を定期的に行い、災害時でも冷静に対応できるように準備している。	●業務継続計画に関して、災害・感染症の研修を実施しており、全職員で更に共通理解を深めていきたい。	
	47	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	10	0	●保護者様記載のシートにより把握している。また、必要に応じて聞き取りも行っている。		
	48	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	7	3	●食べ物の提供を行っていないが、アレルギーなどの配慮事項は毎回確認できるようにサービス提供記録等個人ファイルに記載している。		
	49	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	9	1	●安全計画を作成し、日々の支援の中で安全管理、危機管理には職員間で連携を取り、必要な措置を講じている。		
	50	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	7	3	●子どもの安全確保のため、どのような際にやむを得ず身体拘束を行うかについて等、保護者様に十分説明し了解を得ている。		
	51	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	10	0	●ヒヤリハットに関しては、毎月各職員1件以上挙げ、都度ミーティングの中で振り返り、再発防止策を検討している。		
52	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	10	0	●虐待防止に関する研修は毎年定期的を実施し、日々の支援の中でも適切に対応している。 ●虐待防止に関わるセルフチェックも全職員に対して定期的の実施している。			
53	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。	9	1	●事業所内に身体拘束を行う方針がないが、自傷他害の子どもがいた場合の対応策や、どのような際に身体拘束を行うかは契約時に保護者様に説明し、対象者がいる場合は支援計画に記載する。			